

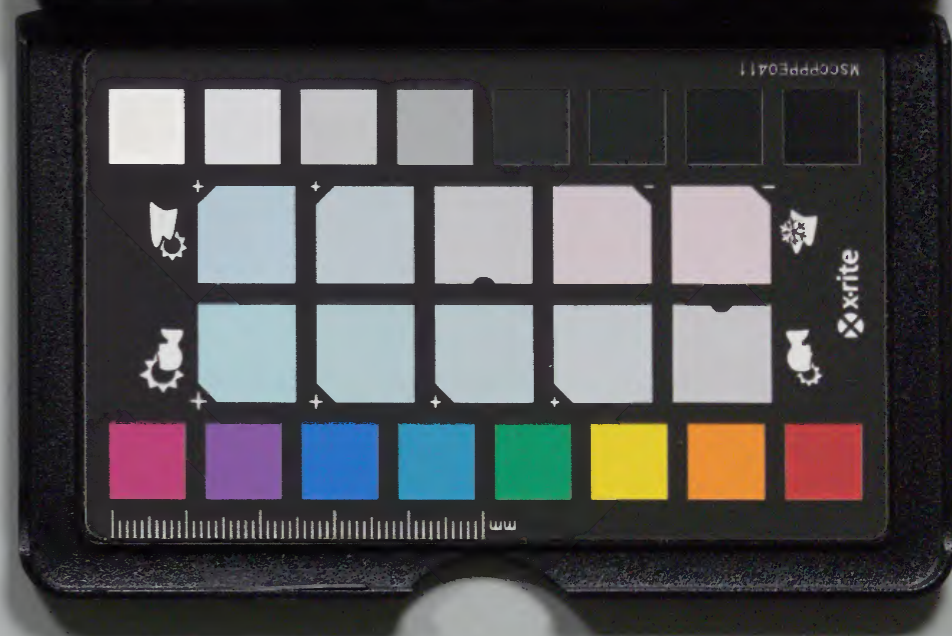
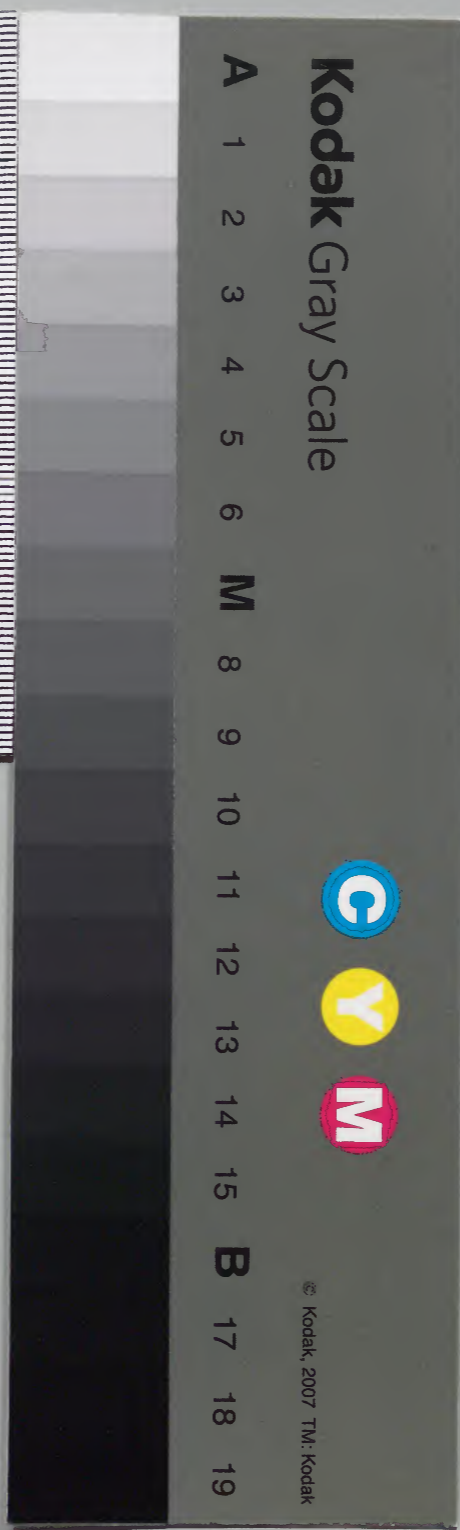
新編江戸志

四

					和書門類
一	一〇	九三〇七			
冊	架	函	號		

庫文閣内			
一七四函	九三〇七		和書類
一冊	一冊		
架			

内閣文庫	
番號	和 9307
冊數	11 (4)
函號	174 42

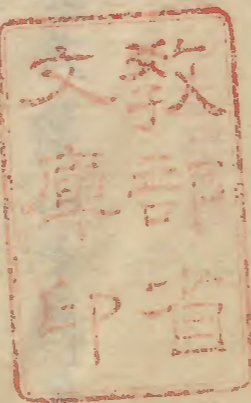


裏面記載のない箇所は省略



新編江戸志卷之三目録

内一〇二四六號



湯島 神田 妻恋 白圀

本郷 丸山

一上野 池之端 坂本 八谷 金杖 千束

一下谷 蓑輪 根芹



新編 江戸志卷之三

湯嶋

和名類聚鈔曰湯島由之萬北条分限帳湯島有

風土記曰公穀六百九十二束三字田假粟三百九十九三

字田貢鹿狐兔山鶴馬牛策

按ゆり源順ハ和名抄ハ出ル見ル北ノ分ノ限ノ帳ノ湯ノ島ノ有リ

之ノ九ノハノトト湯ノ島ノハノ是ノ一ノノト後ノハノ也ノトト也ノ

大ノ分ノノト今ノノト也ノ湯ノ島ノハノ屬ノトト也ノ

○神田社 社領三十石 神主 芝崎 宮内

神社畧記曰社家傳説三當社八人皇四十六代聖武天皇御

宇天平二年鎮坐也始神田橋之内ヲリシヲ元和二年今

内一〇二四六號

湯嶋一丁目ヲ移シ奉リシト也
江戸破子云祭神大己貴命ハ平親王將門其坐往
古神田トシテ一ケ團ヲ設ケ所ニケ所の御田カキ
太神宮ハ初穂の神供ト收じ當國之豊嶋郡芝崎村ノ
所ノ大己貴ハ五穀の神ナレハ喜新々ト多ク此神ヲ祭ル
將門の靈ト崇メ奉ル人皇六十一代朱雀帝天慶三年子
年二月十日平貞盛ハ矢野中野原討之其比將門ノ
茅渟厨屋ニ帝將頼武外多磨郡中野原ノ一出張トシ
秀心の子干晴ト云ハ其將頼利ヲ承ケ天慶三年七月
七日同日川越ノ所ニ干晴ガ為リテ死中野古御湯ノ
具其人民ト歎シ奉リテ延文ノ氏ニ遍上人ニ代真教坊

尚不遊行の時村氏此年ト云ハ其坐の長クハ將門ノ
其と相殿ノ祭ヲ神田大明神ニ坐ルハ其傍ノ草庵ト
云ハ芝崎の道場ト云ハ是淺草神田山日輪寺也ト云
其坐ルハ江戸破子ト云ハ延文ノ氏ノ祭神田ニ座
ルモ其年一傳ル所ノ定永記曰定永三年六月十日
京都ノ所ノ公家庇下向乞乞行幸行紀の事ナリ此時
鳥丸大納言光廣師江戸須田所ト云ハ其坐ル所也
ト云ハ古傳ありハ其坐ル所ノ如何成有ノ標ト云ハ
レニ是ハ平將門ノ勅勅ノ人故古言ハ如此誰祭ル事
モ成ナル由ナレハ光廣ハ將門ハ朝敵ナリト云ハ武
勇ノ名譽ナリ人々最早年々ノ歴ルハ勅免スルハ

所御霊の例任セ 神号と奉ルハ 國家の鎮守共成キト
テ 將軍家ヲ 窺ハル者 京の後 奉國者 勅免有シ
ル迄 所故神田明神の社内ニ 奉リテ 殘禱集ニシテ
考詰セリ 寛永二年三月九日 勅免之ケルヨリ 神記
云ク 九月十五日 祭礼ニシテ 記云ク 此ハ 將軍と 御殿ニ 祭
リニシテ 寛永ニシテ 將軍ノ 社内ニ 御座リテ
江戸ノ 御子 傳ルルニシテ 祭ニシテ
神社啓蒙曰 社家者 流説曰 神田社大己貴命之鎮坐
將門之社者 去本殿百歩計 予未知可名也
慕京集云 深夜 歸雁ニシテ 奉リテ 神田の社ニシテ
ノハ 傳ル時
太田道灌

なまけつたて 声ニシテ 声ニシテ 声ニシテ 声ニシテ
丁令

牛頭天王 三社 當社の祀ニシテ 毎年六月 祀ニシテ

此ハ 江戸ノ 社ニシテ 社ニシテ

風土記曰 江戸神社 大宝二年壬寅 所祭素盞鳴尊
神貞百東三字田

牛頭天王素盞鳴尊ニシテ 竹吉ニシテ 此ハ 社ニシテ

ニシテ 江戸ノ 社ニシテ 社ニシテ

神体石のニシテ 水神ニシテ 此ハ 石位ニシテ 此ハ 社ニシテ

此ハ 社ニシテ 社ニシテ 社ニシテ 社ニシテ

ナク

○人麿社

古来ニシテ 社ニシテ 此ハ 社ニシテ 社ニシテ

便河法修傳孫列便奉納之百俵の内の一戸
ありし也

○八幡神社

求涼雜記曰當社を佐古湯所なり北条氏直吾進
の孫今より按多々あり一將門の社なり是
を今將門の社と云ふなり今社ハ八幡
と宗多々あり一は

神奉一純

北条五代記大永五年一を神一と云ふ南條一新
の能い准を四代一と云ふ一近世半絶なり
小治所の井 神向新代より一松浦一をなかり

江戸世俗の流より一厚かきたてく一を限らなく
一深き井あり一今一是井の蓋壊れて水一得半なりと
一江戸物あり一あり

○聖堂 領十石 儒者 林家持

和漢三才圖會云高祖武德七年二月丁巳始釋奠行
本朝文武天皇大室元年丁巳始釋奠行孔子廟
中古漸絶而尾陽義直卿林道春於上野別莊寛永
十年建聖堂卿自書先聖殿三大字以為此聖堂類火
以後無之元禄年中右御營遷于湯島

江府名勝志云本邦釋尊ハ大室元年二月二初而後花
園帝寛正年中二至而迄于礼行一廢一以後七門院

應仁元年、乱の後、其祀断絶して今五皇ノ一ノ

大成殿ノ額、憲廟御筆、享和二年、八月、二十、日、御筆

仰高、入徳門、杏壇、享和二年、八月、二十、日、御筆

此二額ハ持明院基時御筆、元禄十六年、七月、九日、類火

の後、是時、仁の仰、是基、楠々の仰、筆

本所、茶の水、享和二年、八月、二十、日、御筆

江戸、御寺、聖堂、の西の井、名水、享和二年、八月、二十、日、御筆

と、享和二年、八月、二十、日、御筆

形、享和二年、八月、二十、日、御筆

時、川の中、享和二年、八月、二十、日、御筆

○櫻馬場、享和二年、八月、二十、日、御筆

○初音の菖、享和二年、八月、二十、日、御筆

里、享和二年、八月、二十、日、御筆

せ、享和二年、八月、二十、日、御筆

台、享和二年、八月、二十、日、御筆

○昌平坂、享和二年、八月、二十、日、御筆

詩、家地名考曰、此地聖堂、有、故、昌平、比、

南、郭、詩、昌平、橋、北、對、城、門、と、り、

○湯島坂、享和二年、八月、二十、日、御筆

○門跡井、享和二年、八月、二十、日、御筆

此、門、淺、草、門、跡、の、四、地、り、其、後、和、平、加、賀、の、殿、屋、敷、と、り、
今、是、處、少、路、と、り、芝、草、り、此、井、も、淺、草、り、と、り、

瑞林寺旧地

瑞林寺旧地 同所谷中瑞林寺此處より川沿の比叅中より

○妻戀稲荷社

神主 村木内記

祭神 日本武尊 立花姫 倉稲魂命 三座

神社畧記曰按社説當社八人皇十二代景行天皇ノ皇子
日本武尊同妃立花姫倉稲荷トハ倉稲魂命也是ヲ
妻戀稲荷三社大明神ト号モ亦一殿七座ノ傳あり此外大
國主神女彦名命モ相殿モ凡九神也當社ハ當國の惣
名當國の倉武社トヤハ傳あり日本武尊東夷征伐御
敵陣の時秩父の峯武具を藏の豊湯山寫二戈ヲ止此取
り東海ニ向を給ひ妻戀ト途見凡ハ神録有り當所の上

古あり妻戀其臺も云吾妻といつる縁も皆當社より始り
當社縁起より橋姫命東海陸の八百會二陽魂ヲ止
て海陸と守護ト云ふ所をゆつゝ如魂の神ト云ふ
ト云ふ所をゆつゝ如魂の神ト云ふ所をゆつゝ如魂の神ト云ふ
所記を異すと 求涼雜記云倉武垣笈吾妻戀其臺ト云
ふ所の社の由秘なるト云ふ
或人曰日本武尊吾妻とのこころハ日知記より上野
國碓氷山ト云ふ所也此所よりありト云ふ
求涼雜記の流しありト云ふ所ハ社傳ハ云ふ所を流し書すト云ふ
所ありト云ふ所ハ社傳ハ云ふ所を流し書すト云ふ
此或人の流しを江戸志草終紙より流し書すト云ふ

此所よりあり人送つてのりしに於ての事し、此後此記也
此所よりあり人送つてのりしに於ての事し、此後此記也
此所よりあり人送つてのりしに於ての事し、此後此記也
此所よりあり人送つてのりしに於ての事し、此後此記也
此所よりあり人送つてのりしに於ての事し、此後此記也
此所よりあり人送つてのりしに於ての事し、此後此記也
此所よりあり人送つてのりしに於ての事し、此後此記也
此所よりあり人送つてのりしに於ての事し、此後此記也
此所よりあり人送つてのりしに於ての事し、此後此記也
此所よりあり人送つてのりしに於ての事し、此後此記也

名所誌云し、小山を帝行重吾列國目位を小を帝が

事と申すと上るや、さうして位を、我の小山に於て
その異しとて、さうして、橋を、さうして、さうして、
と、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、

○妻戀坂

此坂の坂を、又、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、

○妻戀橋

此橋の橋を、又、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、

抄より、小山判官信長を奉と命りて、我々平太
 実録より見ても小山判官侯重と、これ記ありしが、後
 家傳記にも、信長を奉りて、信長を奉りて平將
 門の子山判官將重の子と信長を奉りて、常武列して
 信長を奉りて、信長を奉りて、あれ、武列して
 小山判官平八見つと、鶴を、鎌倉大草紙、康暦二年
 足利満氏武列府中、なめ向て、小山判官、御義政と
 行つ、年、あれ、信長を奉りて、武列して、つる
 ○ 稻荷社 書意、屋下 天台 別當 法性院
 世傳より、書意、足つ、信長を奉りて、信長を奉りて、
 抄より、信長を奉りて、信長を奉りて、信長を奉りて、

抄より、信長を奉りて、信長を奉りて、信長を奉りて、

○ 中坂 湯島社半町、南下谷、の下坂
 ○ 湯島天神社 社領、二石 別當 北野山喜見院
 本朝諸社一覽曰、文明十年秋、太田道灌、妾座一室夢中
 見梅、菅丞相具翌朝、或人卒然來、融菅丞相所親筆
 之画像、可謂、冥夢也、遂於城外之北畔、建、
 祠堂、寄、數十頂之炭田、栽梅花、數百株、側有、
 亭、
 号、
 号、香、月、

竟、惠、此、國、紀、行、云、忍、
 かつ、寒、村、の、道、を、
 かつ、風、吹、し、く、
 かつ、油、の、梅、の、香、

○湯嶋神社 湯嶋天神地主也 戸隠社是ナリ

風土記曰湯嶋神社 神貞百東ニモ四字曰雄畧天皇御宇

十七年癸丑八月自宦所祭^{テマ}天子カ雄神也ト云ク

砥餅 江戸砂子云二月十日砥餅ト云ク餅ニ四角

ありト云ク神像ト云ク延氏ト云ク死^シ此例京少ナリ

切流の日ナリト云ク二月十日ナリト云ク

○篠塚稻荷社

ト云ク山麓ニ有^リ中江津流^ルの半^ニ有^リて尚社北の田

○宝珠弁女天社 男坂下

江戸砂子云^ハ此地の地氣長井宮盛庭^ナの地ト云^ハ行^ハ
ハ^ル一^ニ葉^ノ物の地^ト云^ハ近世其^ノ地^ノト云^ハテト云^ハト云^ハト云^ハ
或説云長井宮盛庭^ニ宅^ニ江戸^ニ地^ト今中山^ノ内^ニ然^ル為^レ
ニ云^ハテト云^ハト云^ハト云^ハ

一説云右田道灌の遊亭ニ皓月亭ト云^ハテト云^ハ

ト云^ハテト云^ハの地^ト云^ハト云^ハ

○柳乃井 男坂下

此の一事ハ地^ト云^ハ右田^ノ道^ノ灌^ノの^ノ時^ノ代^ノハ^ハ五^ノ津^ノの^ノ表^ノ門^ノナ^リト
云^ハハ井^ノ地^ト云^ハテト云^ハの^ノ地^ト云^ハト云^ハト云^ハト云^ハ
ト云^ハト云^ハト云^ハト云^ハト云^ハト云^ハト云^ハト云^ハト云^ハト云^ハ
ト云^ハト云^ハト云^ハト云^ハト云^ハト云^ハト云^ハト云^ハト云^ハト云^ハト云^ハ

○向岡

神原家屋敷のまをり戸外より所々とい

わく世をよとせしむるにむすのまをり川のまをりとい

まをり西小山田の園をりまをり東公長此里より

まをり岳の長谷をり六里をりむすのまをり南より

武蔵守北名老よりむすのまをり此のまをり此のまをり

とりしむ

○班女衣掛松

班女衣掛松のまをり

○班女塚

班女塚のまをり

この塚下をりしむるにむすのまをり此のまをり此のまをり
毎年供奉縁起の中よりしむるにむすのまをり此のまをり
むすのまをり此のまをり此のまをり此のまをり

この塚下をりしむるにむすのまをり此のまをり此のまをり

むすのまをり此のまをり此のまをり此のまをり

○無縁坂

同所屋敷の無縁坂なり

寺院

○百螺山鳳閣寺

湯島壹丁目

三宝院汎觸頭遠州濱松二諦坊兼帯和州鳳閣寺ノ

富寺也

○宝林山大悲院

靈雲院

真言律宗園東惣本寺
寺領百石

開山浄嚴和尚

本寺雲農覺玄比丘
元禄十五年六月寂

和漢三才圖會云元禄四年大樹引見賜寺地創建精

舎且賜齊田令為園東真言律ノ本寺

合 ○萬昌山田滿寺 真言

開山本食義光

○天澤山麟祥院 禪宗妙心寺派寺領三百石

開山沼川列和尚謚号本象定禪師

婦女傳曰春日局、齊藤利之娘也稍葉三成妻、上後

年慶長九甲辰年御乳人、被召出二千石、賜寬永

二五年秋願と多々神田湯治の地、善堤、不、建寺

領二百石、寺附有々天沢寺、号、同二十、未、年九月十四

没、法名麟祥院、從二位、子戒大姉

○常樂山宝林寺 浄土智恩院末

開山

○金剛宝山延壽寺根生院 真言江戸四寺ノ内寺領二百石
京都知積院末湯島加通

開山栄誉法印、春日局猶子也、寛永比根生院の称号、賜

本尊藥師如来、春日の作、浄土編

護魔堂、迂流、不動尊

○常樂山法林寺凉知院 浄土智恩院末、湯島元大根畑

本尊灵像、春日作、藥師如来、慈覚作、浄土傳教作

○專修山講安寺 浄土懺隨院末、無縁坂、上

開山迴卷上人 正保三戊午年八月十九日寂

南向茶話、中島治乱記、浄土、本郷、北条、分限、帳、湯島

ある、浄土、書、考、久、き、地、名、あり、北条、分限、帳、湯島

本郷天神社

○本郷天神社 社傳曰神体を見送了天満宮とて菅原相此主(ゆゑに)此社
社傳曰神体を見送了天満宮とて菅原相此主(ゆゑに)此社
社傳曰神体を見送了天満宮とて菅原相此主(ゆゑに)此社

竹俣内よりしる日道沿はく後もと屋平川天神の廻所
一橋より南社を渡り向老(橋より)河内(下目)橋より
此時甚小社(社)社頭破壞(菅原)託事(時)其(時)
後又(高)古(橋)より(河)内(下目)の地(守)守(守)守(守)
小寺列(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)

○別橋 橋(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)
此(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)

比邊社者(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)
○河内園政 湯田下目の北松浦氏の命(ま)の(ま)の(ま)の(ま)

○大根畑 上野河内(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)
今(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)

○傘谷 此(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)
○地獄谷 樹(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)
○河内町

舊事(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)
毎(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)
此(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)此(河)内(下目)

此方領と日向室水の東邊(梅子)と一丸地を合し
此のく御方町と名をけり

○壹岐坂 御方町上り北に在りて其の名を

○鏡坂 御方町下り丸山より南に在り

往古此より武蔵池と割し御方者の名保あり池と他
ゆる坂の名をもしり池の中を古き名保の傳へし
四祀あり多くけりものやけり池と名今より
五六の祀の事く續日中記曰元正天皇天武二年正月
高麗^十十七百九十八遷于武藏國^十と身も此者た内
五六の祀と御造りしものやけり名保と名けり
藤原公の府中を造りしもの保此所より事

りりとも

たきん坂 丸山より北に在り

○菊坂 丸山より北に在り

南向系流より北に東に御方町の名を合し

○梨木坂 丸山の内

南向系流より北に東に御方町の名を合し
睡りし隠者此地より居りし御方の名を合し

○本妙寺坂 丸山より北に在り

○杏川畷 丸山より北に在り

○本師進分 丸山より北に在り

寺院并寺中之神社

○藥王山遍照院三念寺 真言 弥勒寺末寺所
用山品隆 本尊藥師

畧録記云文明年中一人の修行者あり一字の草堂とて
遍照院と号をたると慈覺大師の真作大日如來安置し
恭敬す多し由院の薬師の事とて其惠心僧部母の氣
ハ至此列しとて其像を上足此草堂を祐阿菴此
の像を中足とす 此三念寺の初 此の列風車を揚り
長年中改修安靜の時或は果此の像を供託とす
此の西を則崇念と建藥王山之念寺と号すと云

○應供山等正寺 一向宗 同所

開基釋玄隆 生國之列之人 元和八十年起立

本尊阿弥陀春日作

○青柳山興安寺 同宗 同所

開山宗心 元和三年起立

○嶺松山宝樹院昌清寺 淨土 智恩院末 元町

開山天蓮社龍峯上人吟吟和尚寛永十四年二月七日寂

寺傳云本尊阿弥陀聖徳太子作終り尊像御細具道具
尊像の胎中より當寺中入國前を以て此草堂に
或時武者一人儀の中へ其像と入持ありて草堂に
ゆり其法年経て彼武者も草堂に依て當時の如
きこととけり年月と傳り駿河西相々の所乳母二人の
草堂にあり候一西相の所善院の爲に終り一字と建立

を別当すなりけりは名昌清院破管妙安大姉と云ふ
依りて昌清寺と名けりけり

○正一位三河稻荷社

社傳云抑当法よりと之列 聖海部上中宿禰山
隣稻荷の徳守也

神祖之列 神武天皇の時 陳物村守後 神武天皇の時 用運の後
神領之拾石山林 後内より 稲荷社と云ふ 神武天皇の時 神武天皇の時
所 聖等奉納也 天正年中 所入の 神武天皇の時 神武天皇の時
祀と崇りて 氏神と云ふ 但るは 社と 造営を 其より
始りて 所と 抄す 凡そ 上四年 南寺 境内と 抄す
但中の 氏神と 云ふ 凡そ 是 深き 事なり 云々

享保十六年 亥年 二月 氏子 中志と云ふ 正一位 下叙 任り
也 宝永二年 七月 廿九日 社殿 焼く 縁起 等 焼失 也

○真浄寺

一向宗 東本願寺末

春木町

田基

○和順山觀喜院法真寺浄土智恵院末

空下目

同山 榮譽上人 寛文四年 寂 奉尊 阿弥院 惠心 作子 母地蔵
安置

○孤峯山喜福寺

禅宗 祥雲寺末

同所

同山國傳韓達

○西木山永福寺

一向宗

同所

同山

○祝峯山長泉寺 禪宗 祥雲寺末 丸山

○妙光山真善寺

法花甲列大野本遠寺末觸頭 同所

同山正行院 日田上人 寛永年中起之

○徳栄山本妙寺 同敷後本成寺末 同所

同山日慶上人 慶長年中起之

寺中 本藏院 感應院 奉行院 本了院

仙林坊 本玄坊 真授坊 日行院

真入坊 日衆坊 久遠坊 立正坊

上野 本名 忍岡

小野照崎神社録記に所記の上野と名けり。八山中に朝長

上野に任給して上京の時此地に立りて旅館あり。山後

と申しし。上野の号略となり。江戸物子云々。地味めん

多量。山後論に草創の比其代り地と際井より。為堂の立

降。何れも上野に三方より上りて。山後。山後。山後。

似たり。依りて。上野と。呼ぶ。何れも上野。山後。山後。

此国名の由来。山後。山後。山後。山後。山後。山後。

山後。山後。山後。山後。山後。山後。山後。山後。

山後。山後。山後。山後。山後。山後。山後。山後。

山後。山後。山後。山後。山後。山後。山後。山後。

山後。山後。山後。山後。山後。山後。山後。山後。

山後。山後。山後。山後。山後。山後。山後。山後。

之の心を養ふ事の中の内なるものは名に名はるる
ものの心志のあらはれしむるは名に名はるる
ゆへ下ろす事にして上りしむるは名に名はるる

○忍の固 八雲所物まきひの云 武蔵守とありし一説あり

宗祇回國詔の次に日許草とてしむる新神とてしむる
ゆへしむるは名に名はるるは名に名はるる
は名に名はるるは名に名はるる
宗祇方角抄よ

流しは名に名はるるは名に名はるるは名に名はるる

○五條天神社 此天神とて上降下運給降 瀬川昌恭持

祭少彦名命

菅神二座

社傳曰性古上野山内ニ鎮座ありゆへ此の初傳とてしむる
と知れしむる文明十九年竟惠法降高社へ奉移し申とて
北坐記外ニ書寛永の比瀬川昌恭の社昌恒とてしむる
社とてしむるは名に名はるるは名に名はるる
ゆへ牛天神とてしむるは名に名はるるは名に名はるる
寛永十八年管仲の書傳とてしむる天海大僧正毘沙
門堂公海用眼とてしむるは名に名はるるは名に名はるる
ゆへまかりしむる明暦二年東叡山と
約令とてしむるは名に名はるるは名に名はるる
かりしむるは名に名はるるは名に名はるる

名命の新持春... 十年丁酉東叡山此道... 徳、家も山外... 神... 宗... 神...

神... 正治二年四月十日... 當社も則洛陽... 少彦名命... 神...

藥製... 引... 今此書... 河内川... 流...

東叡山寛永寺圓顯院 天台
開基慈眼大師天海大僧正之御事
前大僧正行狀曰 將軍家欲建宗廟元和八十年
冬十月召當永主膳正參吉及駒井次郎左門昌保ヲ
令卜地於武陵城西北之門西人献圖書請 台命ヲ以

定封境寛永二し丑年春二月 命ノ令下酒井讚岐守
忠勝_ニ當年奉行令下富永主膳正監_ハ經營令小笠原
源六郎掌材木土石之用_上丁畧

中堂 南向 高十八間長廿二間 横十八間

元禄十一年宣八月棟上同年九月三日供養之由傳

記ニ有り 額瑠璃殿 元禄太上帝勅筆_ト江戸初子

尔有り 回廊 寛永年中藤堂和泉守高虎

建立ノ由 額寛永寺 後水尾帝勅筆

文殊樓 之録年中 中堂とあり_ト 濟建立たり

額 吉祥圖 解脫院宮公辦法親王御筆の_ト

法花堂 寛永四丁卯年九月吉辰紀別 西相御建立

常行堂 同比尾別 西相公御建立世傳之代新_ハ堂

云々

雲水堂 二重中堂の_ト 有 井大炊頭利勝建立

輪藏 同所 水戸黄門_ト 御建立

普神堂 中堂の_ト 有 天海大僧正建立

鐘樓 井大炊頭建立高欄の_ト 毫丸邑_ト 御建立

日光御宮 寛永二年御建立 定明日記_ニ 寛永二年_ト 有 別當寒松院

清水

○山王社

是處集之何古此社御境内_ト 有 同通院御建立
寛永の比此地_ト 有_ト 御建立_ト

大佛 唐銅丈六に戸御ふうましりーハのれ佛と云ひ
申當所建意の時神りの所當き今も雨風のころこ
りーと云

時の流 大佛の前

大石燈籠奉寄進

寛永八年 辛未 孟冬十七日

佐久間大膳亮

平朝臣勝之

江戸物よりまう大余石埋りてゑりぬとま石海り玉
とる挿石之抱一りりり

南向景法を佐久間大膳亮掃入の高登九代に浦女巻
村ノ茅古布家村十四代に在り門盛吹四男大膳亮勝之也
一万八千石ヲ領すと云

○大般若

法華堂のー秋井ノ御ノ様ありとて秋ノ御と云
江戸物よりーと云

井戸ノ御の御あり酒の御ー 廿秋の

此のいりて、 宮様御の御様入御御と云ひ
なりひと云わ秋の御ありのりりりと江戸物より
御り

あゝと云い御り河原よりー象りかんよの能登の御
わり金きゆをよと御寄の御といさや能登と云
しりぬらぬと云すやろー秋文様と云ひ
し例の御と云りーさの御のことき歌りん

5

○ 亀子松 喜松院のまきり

或後より世に明應初は松を植るなり所下の
封ち龜の形のとて松の名をよみたり

○ 相生松 吉祥園系の方松系の内なり

○ 吉野松 尾風松の上にはたのまきり 慈眼大師を中松に
苗を植るなり 江戸物なり

○ 日長原 中堂西松原

○ 谷中風應寺中奥上人より松を植る松の中は
ゆきなり

忍岡稲荷社 世に免梅あり 別當 奉覺院

和社畧記曰當社ハ古曰道濟建立也世新氣忍岡と
り名所なり 江戸物なり 慈眼大師南山とひききり

時栖洞ホシラとゆふものなり社を建て松あり 初信よりなり

西大師

慈恵大師

元亨秋書曰親良源姓本津氏江列浅井郡人也母物
部氏夢坐海中向天正日光東入懷中覺而孕
延喜十二年九月二日生中男 永觀三年正月 音唱強
院而歳年七十四

慈眼大師

傳曰天海大僧正足利公方法任院義澄公御末子
母會津蘆名盛高女永正七年誕生御父義澄
公其死を母と因道ニテ會津上下向丹波氏ヲ昌ニ

平氏ト稱ス寛永十九年十月二日圓寂ニ至リ
四歳也云々
江戸砂子云々
慈眼大師
為小繁也云々
一民部法眼の授受也云々
成切云々
歌云道云々
の云云
通云云
甲と授云云

潮東新田井云々
山年息云々
今云々
慈眼大師
下云々
此例云々
二十日云々
善云云
大樹此師云云

御園 天海大僧正長壽寺住持大隱山
觀音藏とて人々告出と定りて一
く行

中堂東

中堂西

本覺院

寛永年中天海僧正建之

寒松院

寛永元年長春堂和泉寺建之

凌雲院

右同斷垣丹後守真宗建之

涼泉院

天海僧正建之

見明院

權僧正憲建之

覺成院

右同断

真如院

紀外公所建之

明玉院

右同断

清龍院

松平母茂守光茂建之

元光院

清尾御前守光勝建之

福聚院

權大僧都宗日建之

東漸院

水谷修賢建之

山下

清水門

普門院

松平所守建之

護國院

天海僧正建之

常照院

加賀若門利常建之

東回院

松平越中守定綱建之

顯性院

尾形義直卿建之

等覺院

信海法印建之

明輝院

越前宰相忠昌建之

養壽院

権大僧都法印庵海建之

修善院

天海僧正建之

松林院

松平因防守康勝建之

一葉院

湯沼信濃守勝義建之

回珠院

乞利細彦建之

吉祥院

中山信長守信若建之

谷中口

室勝院

為眼寺所法平権大僧都蒙仙建之

大慈院

慶海法印

泉庵院

権大僧都慶倫建之

津梁院

津地寺住持信義建之

勸善院

僧正舜美

現竜院

船葉佐渡守正茂建之

春松院

廣海僧正

壽昌院

松大僧都行榮建之

木律院

律院

觀成院

大僧都賢空澤光院殿御殿祇下之

淨明院

開基淨山院圭海増山禪正殿兄才之始日蓮宗十ノ

下谷

風土記曰下谷岡貢鹿兔狸山鴿雉雀等又貢薯

蕨松脂江戸鹿子等下谷と上谷と對して下谷と上

谷と云ふことあり

○下谷稻荷社

又國魂稻荷とも云世古廣徳寺前より稻荷町一丁目十ノ

慈雲山

別當

正法院

しよまき此中を南社ハ下谷伊佐土町のくろくろの一年
下谷より出たきく多敷多焼く此女は一羽とやまをり
後天正壬辰のあま年松の事ありてより糸丸をりし
つゝ唐徳寺前より遷坐のより此社三月廿九日江戸
物より二月十日と云ふは非なり

○三弦堀

佐竹町多敷町の東邊年々秋より入場り江戸物子
より此堀の形之味線は似たりと云ふ

○長者町

佐古此よりより走りありあり各所あり

○忍川

佐古此よりより走りありあり各所あり

不忍池より流るる流をいふは流橋の流なる

○忍ヶ橋

一柳内記の格をいふは二回りの格なり

○忍ヶ池

一柳氏東より河野幸房の格をいふは忍ヶ池なり

大なり池なりと近年埋まると一柳氏の池なり

河野氏の格をいふは忍ヶ池の池なり

一といふは忍ヶ池の池なり

一といふは忍ヶ池の池なり

○忍ヶ橋

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

忍ヶ池の格をいふは忍ヶ池の池なり

一池年の高き竹下... 是れ人のふらふと...
 揚の後も高き竹下... 是れ人のふらふと...
 一池年の高き竹下... 是れ人のふらふと...
 揚の後も高き竹下... 是れ人のふらふと...
 一池年の高き竹下... 是れ人のふらふと...
 揚の後も高き竹下... 是れ人のふらふと...
 一池年の高き竹下... 是れ人のふらふと...
 揚の後も高き竹下... 是れ人のふらふと...
 一池年の高き竹下... 是れ人のふらふと...
 揚の後も高き竹下... 是れ人のふらふと...

長井堤

池の傍竹下... 是れ人のふらふと...
 堤いたし... 是れ人のふらふと...
 長井庄

湯島... 是れ人のふらふと...
 比の... 是れ人のふらふと...
 州地... 是れ人のふらふと...
 ○ 寶盛墳

湯島下... 是れ人のふらふと...
 杉本氏... 是れ人のふらふと...
 杉の塚... 是れ人のふらふと...

あしうきく 原年盛衰記年永ぬ徳とくゆく老ん
宮登き少も 行地とれん世永小塚ありんか
くゆくは是はさる盛力多徳代に安ら別寺 是より
是はさるの内行れくは原の塚より 長井至あり
日宮の盛衰原景盛景忠実負代に或外長井の
是より行きてり

○ 幡随院

舊井池の路板念有右の角に伊勢多よりうのふ
幡随院のり他より妙竜れの名ありそ名水より
○ 境稻荷社 池之端にや丁三角 原泉山 本條院
社傳より行きてり 法代定永五年り所みら所家

とくゆく 時後守と云え縁六年 九月 改古路
流れもきく お定めぬりうされい 高社の跡
このまを白ひ、是の場ん多 印の跡に松の下を

○ 鏡ヶ井

世より奇事ありは井といひくもくも水より
とふいよく流り、所産の角に井といひ又世より
中務所の社地よりあり井といふ

○ 坂本

東叡山御建立の布り定永に此の地は此叡山の十
津坂よりありて高きと号も所産地よりあり
て下み入る行きてり

梅より今下宮と移り系よりの地を以て
はさか申の事北地入に成りたる事一
今秋書の梅も千代の地を以て龍泉寺に
の千束村とくわ系分限地より千束
龍泉寺に成りたる事一
龍泉寺の事一
龍泉寺の事一
龍泉寺の事一
龍泉寺の事一
龍泉寺の事一
龍泉寺の事一
龍泉寺の事一
龍泉寺の事一
龍泉寺の事一

手紙の事
○庚申堂聖徳太子作以不別當寺可羅院崇成寺 喜宝院

日本二庚申の内所謂二庚申ハ京八坂庚申大坂天王寺
庚申當所以本庚申也

小野照崎神社 天台野末 別當山禪林寺 嶺照院

縁託曰當社ハ參議台と崇成寺ハ其廟ハ竹千代
大師下野國大慈寺より名師より執りて
千代のほよ止宿一臨り多と崇成寺にて一寸
此節の事ハ其の物事と類し後ハ其の事ハ
禪定坊と名付あり其の事ハ其の事ハ
と其の事ハ其の事ハ其の事ハ其の事ハ

後教今般境ありあつた上野屋小三後山守任所を
上野一ツツとて移定城とて同守の守とて仁壽二年小
二月至城上幸をいふつた夜上野屋移居御光を
山平上輝く行光とていふと火災ありとていふ人評定所を
中よるありあつて我君とていふと夢見とて別
神皇と小野照崎と明神と宗ありとていふ上野屋とて
社所とて移定城と別ありとていふ仁壽二年至長建
久年中社所と遷之し重長守守定朝臣の藤原如
事と守所と遷之し藤原と藤原ととて安んず
年中東島山守用開の行時とて撰志とていふ
少野照崎明神とて中入守村とていふ移居の地とていふ

上野屋

是上明神移居地とていふ藤原守俊内守移居と
移居の地とて新川の内守あり毎歳祭礼の時山旅
所とていふ

此長尾の移居地とて仁和の比古氏長尾とていふ
少野明神の事移居の地とていふ
よとていふとていふとていふ

文德實錄曰仁壽二年正月癸未參議左大臣
從二位小野朝臣實貴時五十一箇身長六尺三寸
家素清貧事母至孝公儀所一嘗皆施親
今少野とていふ

録念大孝子 是利学授ハ上代美和六年山野
上野國司一時節結の一と記をもとに上野
任と考ふる上野司一と考ふる一是和六年ハ
隠岐國ハ此流の中一と任國のゆへなる一
公卿補任之義和五年三月丁丑止宮死流隠岐國
同七年四月丙辰六月入京被薨衣以行謝同八年同
九月十九日復即位正五位下一又日本後紀同天皇
二と己年九月己巳詔曰一庚午大政官府應親王任
守事上総國常陸國上野國と云つたハ天長
一と後此之國ハ親王國日此國と定むるハ
朝任任も念き一と考ふる一曾思量一孫結

一ハ隆孝守一一時の事一一是利二と授一世時
分らん志一一上野司一とおぼしめし一世時傳の流
と考ふる考ふる上野司一と考ふる一一山守一と考ふる
傳一と考ふる一一又隆孝守一と考ふる一一此流ハ
隆孝守一と考ふる一一上野司一と考ふる一一此流ハ
一と考ふる一一上野司一と考ふる一一此流ハ
一と考ふる一一上野司一と考ふる一一此流ハ
一と考ふる一一上野司一と考ふる一一此流ハ
一と考ふる一一上野司一と考ふる一一此流ハ
一と考ふる一一上野司一と考ふる一一此流ハ
一と考ふる一一上野司一と考ふる一一此流ハ
一と考ふる一一上野司一と考ふる一一此流ハ
一と考ふる一一上野司一と考ふる一一此流ハ

寺院流寺中之社

○宝玉山常樂院長福壽寺 天台野末 上野町

用山行基

○六阿弥院 行基作 五番目

類聚國史曰養老元年二月丁酉大僧正行基和尚遷化

其異神驗觸類而多時人号行基菩薩留止之處

皆建道場

○妙宣山德大寺 法花宗 正中未 同所二丁目

用山日遣上人 摩利支天安置

○藥王山一乘院 真言真福寺 同所青店

用山祐照法印 藥師安置

○池見山福成寺 淨土真宗 東本願寺末 池ノ端仲町

寺傳云用基不意八幡列野田の岸に大坂布禰寺の時

教和上人の味方とて付記多し其後出家し其長

末江戶に於て松浦出雲守に同基とて高年建立す

用本尊阿弥院 惠心僧部作之八幡神 淨室所に安置

○高永山教證寺 東本願寺末 同所萱町下目

用基東叡山久遠院宮御尊母教證院焉御菩薩授御建

立たり

○紫蓮山山名院宗善寺 同所 同所教證寺の末

用基山名院宗善也姓古參列ニリ後湯治栢本町

移寬永年中當所一引移上寺傳也

○常光山大安寺稱仰院 淨土幡隨院未 同所 萱町三丁目 崇光寺向

用山回峯重達上人 元和二丙辰年起立本傳三湯島ノ内上

○天德山永昌院 禪宗妙心寺未 同所 七軒所 稱仰寺並

用山再任妙心洞院 大和尚祥師

○珠芳山淨回寺 同石川喜運寺未 同 七軒所

用山一參宗道大和尚

○願向山心行寺 淨土法典寺未 同所 池ノ端

用山木食空無上人 江戸六地藏 四番目

○妙光山宗賢寺 法花身延寺未 同所 心行寺並

用山

○本野山覺性寺 法花別大野本遠寺未 同所 宗賢寺ノ

用山

○盛林山大正寺 同妙覺寺未 同所 覺性寺

用山因通院日亮上人

○潛龍山東淵寺 禪宗妙心寺派 同所 覺性寺

用山快源和尚

○法林山正慶寺 同 同未 同所 東淵寺ノ

用山湛水和尚

○榮珠山妙顯寺 法花 妙滿寺未 同所 正慶寺ノ

用山日什上人

○向岡山渡辺院忠綱寺 東本願寺未 同所 妙顯寺

開基渡辺豊前守忠綱也則石牌有

○淨松山休昌院 禪宗妙心寺末 同所 忠綱寺ノ例

○吳鷲山常在寺 法花宗大石寺末 竹所 五條天神

○開山中真日精上人 同所 瑞在寺

○金龜山本光寺 同吳鷲山寺末 同所 瑞在寺

○開山日便聖人 同京本正寺末 同所 本覺寺

○法要山啓雲寺 同吳鷲山寺末 同所 山下

○開山日音聖人 同京本正寺末 同所 本覺寺

○開山日立上人 同吳鷲山寺末 同所 山下

○慈雲山正法院 上野末 同所 山下

○開山中真豪春法印 同所 山下

○四湍山廣德寺 禪宗大德寺末 福荷所 世廣德寺

○開山希叟宗芋禪師 天正十九年小田原ヨリ移ルト云 同所 山下

塔頭 德雲院 柱德院 栄雲院 梅雲院

長春院 法輪山恭宗寺 同寂勝寺末 同所 廣德寺ノ

○開山武庫昌藝大和尚 元和六庚申年七月十一日寂 同所 恭宗寺

○開山月峯山宗源寺 淨土増上寺末 同所 恭宗寺

○開山教蓬社室譽上人月秀和尚 同所 恭宗寺

○開山朝日山願成院永昌寺 同末 同所 宗源寺

同末 同所 宗源寺

同末 同所 宗源寺

同末 同所 宗源寺

同末 同所 宗源寺

同末 同所 宗源寺

同末 同所 宗源寺

開基鎮蓮社尊誉上人求心礼阿栄全和尚本尊阿弥陀
運慶作

寺傳云天正年中下谷長者草創モト長者町在り元和元年
此所移明曆四年松浦肥前守母公永昌院殿再真
之中下谷長者墓當寺在由江戸砂子見也

按云云云下谷長者の事と寺傳の同云云云
モト長者の事と寺傳の同云云云
天正年中下谷長者の事と寺傳の同云云云
寛文七年の事と寺傳の同云云云
長考の墓と寺傳の同云云云

つり浮え此とハ母之丸と云々
月と若埋み々々
伝々々々々々

○光照山西徳寺 一白宗 佛光寺末嗣頭 同所 永昌寺ノ
開基隨庸上人 寛永二年起立

○常光山蓮海寺 日蓮宗平賀奉土寺末 同所 恭宗寺末
開山成熊院日玄聖人

○三寶山威雲寺觀喜院 淨土宗具岸寺末 同所 蓮成寺
開山龍誉上人

○子安山西蓮寺 淨土宗 黒谷末 同所 威雲寺
開山高誉上人 中興貫誉上人

子安大明神

寺内安置

累縁起云抑當寺は鎮守は備後國の身なりと云ふ事長
祿二年壬申道灌江州と云ふ事ありしといふ法
を定しと云ふ事ありし備後國ありし事乞橋本寺
あり安大明神の正統山魏と云ふ事ありしと云ふ
事乞橋本寺を備後國の側より牛馬山を東嶽山の傍
よりありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
花洛四箇本山勅願寺淨華院へ遷し義天といふ住
僧元和五年佛國精舎よりありし事ありし事ありし
事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

きしきし下界

○神田山幡隨院

新智恩寺

淨土十八檀林之内寺領 西蓮寺、白例

五十

岡山智譽上人幡隨白道和尚土紀別名牒ノ人元和九年正月

五日寂七十四

寺傳云當寺と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし
事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

妙龍水境内ありし

碑銘

此の碑ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

同祖幡隨大和尚執法釵ヲ建法幢飛錫如意真妙年

又用演佛而誘群品咸歩白道踏彼岸是故振化

於東園摧邪於西海可謂其德也彌天矣天正十午秋

和尚住越之後州高田善導寺七日別行念佛未後三日

享保ワキリ
住運同悟道場
實相覺月洞朗
故號王譽蛟龍
又曰奪

疾風迅雨晦冥中和尚專修不輟忽有一女子悅然拜和
尚請受法眼脈乃曰我則蓋生龍女願欲賴脈譜
而得シテ脫シテ若和尚則授一乘戒也已願遂乃折言和尚之所往
涌出清泉長捧水言畢不見果如意爾來影像所
安或南或北而清泉又從移無地泉有今龍水此也
往蓋龍泉之深不知幾尋而澄徹瓏佛騰不吝往傳其
怪也云稱譽住當院之二年實享保八冬卯秋畧記
其事刻石以為不朽伏願除文護法永萬々神田山
不濡石塔 白道和尚筆并の

寺中

源良院 向旭院 惠眼院 正竜院

智白院 所化寮四十余宇

○黃雲山龍谷寺 禪宗洞家 東勝寺末 新寺町永昌寺横丁
裏階隨院ノ向ナリ

○関山南嶺賢寺大和尚

寺傳云元和二酉辰年起立用基野村彦太夫為重也初神田

湯島有明曆元未年當地一移

秋葉社 當寺六世大震和尚之時勸請

○功徳山天竜寺 禪 駿州大正寺末 同所 階隨院裏
川向

○関山一庭永見和尚

○報新山宗延寺 法花身延齋頭 同所 高岸寺横丁
階隨院通リ

○関山日靜上人 寺中 學成院 正理院 心了坊

或人之本堂天井三間四方龍ノ一字洋輕家士仲籠ノ
筆十ノ御府内の寺院紙上ノ書ハ大字ハ一ノ

○宝聚山大久寺 同越後本成寺末 日所高岸寺懷ハナリ

出山日朗上人當寺日蓮上人腰掛石ありしとらう

出世無天安置とらう
○龍洲山白泉寺 禅達列長興寺末 同所ハ境寺ノ

用山雪外秀大禪師 當寺元遠ズヨリウツル

○萬順山高岸寺 禅宗 集福寺末 展風坂下

用山秋嶽大助文和尚

印像地藏

伊人御多ク 後遍ノ云正徳己年田氏何某書スル

若不死一サとらう 甲氏とらう 信とらう 西ノ地蔵ノ
と新とらう トとらう トとらう トとらう トとらう トとらう トとらう
像ト示新像ト寫トとらう 像ト示新像ト寫トとらう
クとらう 像ト示新像ト寫トとらう 像ト示新像ト寫トとらう
ハとらう 像ト示新像ト寫トとらう 像ト示新像ト寫トとらう
像ト示新像ト寫トとらう 像ト示新像ト寫トとらう
日とらう 像ト示新像ト寫トとらう 像ト示新像ト寫トとらう
用山照應院日賢聖人 法花妙満寺末 山崎町

○瑞祥山仙龍寺 禪 妙心寺末 同所 蓮花寺

○用山大雲和尚 淨土 智恩院末 坂本 隨院末

○湯島山長光寺 淨土 智恩院末 坂本 隨院末

○用山實運社相譽上人 同所 長光寺

○宝橋山大聖院 真言 田福寺末 同所 長光寺

○用山来秀法印 同所

○金光山大覺寺養玉院 天台 上野末 同所

出世年天社あり

南向茶屋 幸のほめをいふ書と引て同此年元
を大島の向ふと云ふ菟院と云ふ宝永年中養玉院と
改二月八日涅槃像を以てと大幅に南光坊の額

り

○藥王山延壽院 喜養寺末 坂本二丁目

寺傳曰用基慈覺大師 天長年中建立本尊藥師
如來慈覺大師の化り

圖广堂運慶作 与寺と似よりんま堂と云ハ世傳を以て

○極善山最上寺 淨土 智恩院末 同坂本二丁目裏

用山起蓮社高譽上人 体道和尚

○此系雲山常倫院英信寺 同吳岸寺末 同坂本二丁目

同山吳巖松譽雄譽上人 寛永年中起立

○法住山養傳寺 法花 小湊 誕生寺末 同所

同山本是院日嚴上人

○養光山金鐸院永元寺 天台止野養壽院未 同所の
 寺傳云天正年中同基真言宗空藏院上号同山権大
 僧部法印慶賀也其後禪宗改其時中真道也和尚
 又其後山野嘉左門永久上人下総國那賀檀所貫主
 と日寛と相招き日蓮宗と改宗して蓮覺寺と号す
 たりふ寛承の以 即日寛とて 蓮宗清内依
 たりふ一竹系と改宗とて 増山浮山とて
 釣合とて 山と改宗とて 日寛とて
 たりふとて 日寛とて 久遠禪宗の清子とて
 降日院とて 院とて たりとて
 本尊上品中生阿弥陀 蓮ふ他 勇烈考例 蓮主の内

護摩堂本尊不動智證大師作大黒天傳教大師作

辨賊天三昧

慈覺大師他
 智院大師他
 弘法大師他

元三大師 解脫院宮御厄年秘魯供奉尊

○急水山法清寺 禪宗 龍穩寺未 同所 龍穩寺未 同所

同山鉄心列大和尚永平八世大覚佛海禪師龍穩寺
 二世也

○月山清光院長松寺 淨土 智恩院未 同所 松寺未

同山實峯上人

寺傳曰元祖日光大師伊勢天照大神入參龍の時

月と形一、月宮の佛影あり、その右所筆を執て少安
と書よ、いぬ、酒、日、第一幅の淨真像、中寺の什宝に
依る月の北長松寺十号すと云

○長成山東蓮寺 淨土 幡隨院未 日所供奉あり

同山大蓮社起譽上人 鉦冠藥師如來

畧縁託之人皇五十二代嵯峨天皇御宇弘法大師御長
三寸余の造り、尊像く、その年中深川の正西法師と
いふ系像出置、より明曆三四年大坂の御世、像
の厨司に依鉦と置くと云、入を、より、す、云、
所焼と云、火靜くと見ると、その像の依鉦成
居や、い、の、弘、の、有、る、流、り、け、り、ま、る、像、ハ、ま、り、と

とて恙なく、西法師、信仰せ、め、り、の、り
も、不、換、細、の、を、了、世、帯、の、産、と、し、も、山、宗、教、の、よ、り、世、人
鉦冠藥師如來と云、考、せ、り、其、驗、を、し、り、い、と、
ありと云、

○佛立山真源寺 法花 光長寺未 同所

同山日融上人 鬼子母神安置

○紫金山靜蓮寺 淨土 幡隨院未 同所

同山寂譽上人

○安國山良感寺 同所

同山相蓮社傳譽上人 入念地、念、公、信、大、作、作、世、置

○廣澤山正洞院 禪宗 水戸料山寺未 同所

用山天列卷虎大和尚 元和元年九月廿七日寂

本尊

釋迦 文珠運慶作 普賢行基作

○日照山法昌寺 法花上総 吳鷲山末 同所 坂本四丁目

用山日韶聖人

○毘沙門天安置 元貞源院と云ふは此の地中ニあり 天久二年の比より寺院移すに月工移り

○光明山遍照寺 恭壽院 洋土 智恩院末

用山成蓮 譽尊 譽上人 團龍和尚 延宝七末年九月廿日寂

用基 八野々山丹後守殿妹 恭壽院 殿幸屋 榮壽大姉

○喜翁山宗慶寺 禪洞家 茂林寺 同所

用山快別 正悦大和尚 寛文元年 辻化

用基 喜翁 宗慶 大居士

○光雲山自然院 隨德寺 一面宗 同所

用山了須

○金峯山全得寺 禪洞家 同所 坂本四丁目

用山 高向山 全德大和尚

○台德山正覺寺

用山 養山 巖胡和尚 寛永廿五年六月廿日寂 寛永九年

起立 金板弁天 行基作 立像二尺八寸 法花殿川光良寺末 同所

○宝塔山感應寺 法花殿川光良寺末 同所

用山 日純 聖人 大黒天 傳教大師作 安置 坂本四丁目

○小野山嶺照院 上野末

用山慶賢法印

○佛迎山安樂寺 淨土 治東一心院未 金板一丁目

用山照蓮社覺譽上人 意岐和尚 正保二年八月言寂

中真一蓮社尚譽上人 秘佛聖觀音 雷除如來安置

○覺法山了源院 禪宗 妙心寺末 同所二丁目

用山持翁和尚 禪師

火除觀音

畧縁記云 昔年相列 錦宮巨福山 建長寺 用山大覺禪

師 大唐長白山了登 入夢と得く 右窟に此入像

と傳へ 寛元四年 奉持之 一しりて 南州や

堂と巨福山中に 安通し 祈念と 其後 山本高時 國

と初の時 佐久間 貞國と云者 歌の古計より 進退

ありし 孫と云ふ 小の薩摩の事と 念誦と

此の世 難と云ふ事と 得と云ふ事と 依と云ふ事と

世と云ふ事と 那次と云ふ事と 而後 歷世 宗教と云

未長若原道 治多地と云ふ事と 此寺に 同春と云

火厄除難と云ふ事と 是像と云ふ事と 正保元 甲申年十

月吉日 了源院 始創 持翁 法印と云ふ事と

○佛名山万徳寺 淨土 智恩院末 同所

用山了蓮社 覺譽上人 明暦元年 未七月 大言寂

○南陽山負源院 禪 妙心寺末 同所 草首所

用山持謚 大法服 国師

谷中

○懐妙山善性寺

法化身延未客坐席 同所 本村

同山日喜聖人 長享元丁未年八月寂 宝永二年

長昌院様傳由緒ありて仍て寺領百石并願の由寺傳く

○延命山地藏寺西藏院

真言元本吉祥院未寺名 同所 金松中村

同山権大僧都平真和尚

同基河野氏よりくると之を江崎守より移り後之河野

より移り之傳の社に河野氏御傳よりありしを色と元

之傳よりあり

○長久山永祿寺

一向宗

同所

同基正永法印

○普陀洛山千年院

真言

護國寺未

同所

寺傳云當寺同基より星霜三百年よりありしよりあり

文明の比

同本尊 觀音

弘法大師作腰蓋の尊像あり

○鐵砧山觀音院世尊寺

真言元本吉祥院未 寺領十有石

同所

同本尊 大日如來

弘法大師作藥師如來安置

○満声山西念寺

淨土

灵巖寺未

同所

同山飯山和尚

寛文土亥年肯冒寂本尊弥陀惠心作

○正覚山往生院壽永寺智恩院未

同所

昔壽永尾ト云

伊織の女中の厄の所よりありし

土橋氏同基より寺より同山一巻上人のよりありし

宗

用山彦首曉卷上人 享保年中真如律院に改持り寺傳

○東光山藥王寺 天台 上野末 兼ノ倫

用山天海大僧正本尊 藥師傳教大師作

○花嶽山海林寺 禪 源照寺末 同所

用山天室祝大和尚

○榮法山起勝院淨用寺 淨土 増上寺末 同所

用山天蓮社晴卷須波和尚

○満海山千日寺公春院 淨土 聖德寺末 同所

用山満海上人

證據の松本堂の事あり

寺傳云満海上人より世岳卷上人の事寺院改め

了るもくもく区修も感きよき後より世招きくの本
かりにおかきまききとんと評多ありてまきや
みぬ代々世を相承もりてこれよりまのまの
分るるもくもくあり

○神島山真正寺 禪宗 洞家 同町

用山心云羽和尚 秋葉権現安置

○補陀山圓通寺 同宗 同町

用山觀月和尚 本尊觀音大士聖德太子作

鷹見松

竹古ハ境内あり之松此の邊にありてあり
町ありてありてありてありてありてあり

ゆき... 上... 修... 寺...
今... 寺...

○運干山真養寺 法花身延 同所

同山日曉聖人 寛永二年起立

○真覺山菩提院西光寺 浄土増上寺未 同所

同山聖蓮社賢譽上人長公和尚 長和元年起立

本尊阿弥院 惠心僧都作 源頼有守奉尊

浅木櫻 古本... 名ある本...

紅葉 江戸... 紅... 古... 寺... 龍泉寺十束村

○木立山長國寺 法花灵鷲山齋頭 龍泉寺十束村

同山日乾上人 寛永三年寂

鷲大明神あり

寺家 了達院 知性院 久遠坊 田立房

○正覺山響流院大音寺 浄土智恩院未 同所

中真同山増上寺廿六世頼蓮社本公譽上人歴天和尚

○東光山等仰院龍泉寺 浄土諸向 同所

同山

○東陽山正燈寺 禅宗妙心寺未 同所

同山愚堂和尚宝鑑 国師

此... の... 観遊の人... 寺のお

龍... の苗... 植...

○端光山月洞寺

禪 金地院末 同所

用山大真禪師大和尚

○光明山西德寺

佛光寺末

竜泉寺所

用山善如法師

○寶鏡山日光寺

禪宗 謙茂

根岸

用山杖嶽大助大和尚

藤 辨天社

弘法大師作

世々名乃三十三ヶ所



江戸志卷之三終

